

## 雲蒸竜変 昇龍分権の年に



平井伸治 鳥取県知事

世界的な金融危機を始めとして、歴史的な円高や長期化するデフレ、東京への一極集中や海外への企業流出に伴う国内の空洞化など、日本を取り巻く情勢は極めて厳しい状況です。また、世界でも例を見ない少子高齢化を支える国・地方の社会保障の課題に対しどう解決策を講じるか全世界が注目するところであり、国・地方の役割分担や分権的税財政制度の構築など抜本的な議論が急がれます。

本年は、この国の在り方を転換する、地方分権改革正念場の年です。政府は、「地域主権改革」をマニフェストの一丁目一番地に掲げた原点に立ち返り、改革を断行し明確な成果を示さなければなりません。

政府の「地域主権改革」に関しては、国から地方への「ひも付き補助金」を廃止し、地方が自由に使えるようにするとされた「一括交付金」は、中途半端な総額にとどまり配分基準の改善も必要な上、補助金等適正化法が適用される国庫補助寄せ集めの「ひも付き一括補助金」にとどまっています。また、本県も参加する関西広域連合では、九州とともに、地方整備局・経済産業局・地方環境事務所の国出先機関の権限移譲を先行的に求めています。また、中国地方においても、私も提案してきた広域連合設立、権限移譲の受皿づくりも視野に検討を開始しました。とりわけ、地方が全国的に求めているハローワークの地方移譲については、厳しい雇用情勢に産業・労働連携して対処する切り札として、出先機関改革のモデルケースとなるべき分野です。厚生労働省は踏み出そうとしますが、鳥取県は全国で唯一県が設置運営する「ふるさとハローワーク」を組織しており、国のデータベースと接続すれば住民に密着した職業紹介が可能であることを実証しています。関係法案提出に向けた総理の強力なリーダーシップが是非とも必要です。

この国の閉塞感を打破するために、地域の発想で分権的に活性化を図る知恵と行動が求められます。本年11月「国際マンガサミット」が鳥取県で開催され、世界の漫画家が鳥取県に集結します。「ゲゲゲの鬼太郎」の作者水木しげる先生の出身地である境港市の「水木しげるロード」を核としたまちづくりは、シャッター街を今や年間300万人の観光客を呼び込む地域活性化の象徴に導きました。鳥取はまんが王国建国を宣言し、8月から11月まで国際まんが博を開催し活性化に踏み出そうとしています。多くの方々の御来県をお待ちしております。

未曾有の爪痕を残した東日本大震災からの復興は我が国最大の課題です。遅れがちな政府に比して、初動の支援で大きな役割を地方が果たしました。鳥取県からも避難所支援などいち早く被災地支援に赴き、宮城県河北新報の社説で最も早く支援物資が鳥取から届いたと指摘されました。地域をつなぐ絆は、指揮命令の伝達や意思決定に時間のかかる国よりも、力を発揮するものです。

本年は、こうした災禍や厳しい経済雇用情勢を乗り越え、地方分権でこの国を力強く回復する昇龍の年としなければなりません。雲がわきあがる中自由に竜が「雲蒸竜変」のごとく駆け回る・・・地域が現場主義でこの国をリードする決意と行動を示す時です。